

Monthly Report

Vol.80 / 2012 Dec.

サッカー部主将 蜂須賀孝治さん、 ベガルタ仙台入団内定 — 仙台大学サッカー部から17人目のJリーガー誕生 —



左から都丸スカウト、白幡社長、蜂須賀さん、吉井監督、朴澤学長

12月12日（木）、仙台大学第五体育館302教室で、仙台大学サッカー部はちすかこうじ主将である蜂須賀孝治さん(体育学科4年一桐生第一高校出)のベガルタ仙台入団内定共同記者会見が行われ、仙台大学サッカー部から、これで17人目のJリーガーが誕生しました。

ベガルタ仙台の白幡洋一社長、仙台大学からは、朴澤泰治学長・吉井秀邦サッカー部監督・蜂須賀さんが会見に臨み、宮城テレビ放送・東北放送・仙台放送の各テレビ局3社、河北新報社スポーツ部・河北新報社編集局デジタル編集部・日刊スポーツ新聞社東北総局・スポーツ報知新聞社東北支局・サンケイスポーツ東北支局・読売新聞社東北総局・朝日新聞社仙台総局・桐生タイムス（群馬県）・上毛新聞（群馬県）・プレスアートせんたいタウン情報の各新聞・雑誌社9社、延べ13社の報道各位から取材を受けました。

会見では、朴澤学長が「仙台大学サッカー部から、昨年の奥壘選手に続き、蜂須賀孝治君が地元のベガルタ仙台にお世話になることを大変嬉しく思う。教育機関の役割として地域連携があるが、ベガルタ仙台と本学との連携を通して、地域を元気に出来れば嬉しい。蜂須賀君の活躍を期待してほしい」と挨拶。【裏面に続く】

目次

サッカー部主将 蜂須賀孝治さん、 ベガルタ仙台入団内定	1
第17回新体操演技発表会	3
ロンドン2012応援感謝パレード	4
朴澤学長と菅原事務顧問が ベトナムを訪問	5
全日本柔道連盟指導者養成 講習会	6
健康づくり運動サポーター事業 「健康カフェ」、「秋の健康収穫祭」 合同報告会	7
OB・OG・学生の活躍	8

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございまし
たら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp



共同記者会見の様子



左から白幡社長、父・豊さん、蜂須賀さん、母・規子さん



白幡社長は「ベガルタ仙台の補強の要はDF。頼りがいあるDFを補強できたと思っている。蜂須賀選手は、人格・人間的にも常識をわきまえた良い選手であり、リーダーシップを発揮し、早くレギュラーを確保してほしい」と蜂須賀さんへの大きな期待と今後の活躍について述べられました。

蜂須賀さんからは「プロサッカー選手になる夢を実現し、ベガルタ仙台という強いチームに入団できて嬉しい。家族・サポーター・チームメイト・仙台大学への感謝の気持ちを忘れず、頑張っていきたい」と話し、「チームで必要不可欠・ポジションによっていろんな特徴が出せる変幻自在な選手になり、若手がチームを引っ張るという意識を忘れず一生懸命に頑張る」と抱負を述べ、プロで活躍することを力強く誓いました。

最後に、吉井監督が「2年連続でベガルタ仙台という強豪チームに選手を輩出できたことは誇りであり、監督として嬉しい。蜂須賀はダイナミックで、可能性を大いに秘めた選手。プレイだけでなく、責任感があり、自分を律することのできる素晴らしい選手」と蜂須賀さんを紹介しました。その後の個別質問も含めると1時間以上にも及ぶ共同記者会見は、熱気のうちに締めくくられ、先輩を祝福しようとかけつけたサッカー部の後輩達にとっても素晴らしいお手本として、何よりの刺激になったようです。

引き続き、蜂須賀孝治さん並びに仙台大学サッカー部への熱い声援を宜しくお願い致します。

【仙台大学サッカー部出身の歴代Jリーガー】

NO	氏名	所属チーム	現役引退
1	千葉修	鹿島アントラーズ 他	引退
2	平田圭	ジェフ市原	引退
3	草野修治	横浜フリューゲルス 他	引退
4	古川毅	コンサドーレ札幌 他	引退
5	加見成司	名古屋グランパス	引退
6	内館秀樹	浦和レッズ	引退
7	伊藤壇	ベガルタ仙台 他 ビレム・ブライト・コナイテッド (カンボジア)	現役
8	箕輪義信	ジュビロ磐田 他 ※2005年日本代表	引退
9	苫米地健一	水戸ホーリーホック	引退
10	芳賀博信	ジェフ市原 コンサドーレ札幌	現役
11	赤井秀一	愛媛FC	現役
12	池上礼一	FC東京 他	引退
13	大橋良隆	ベガルタ仙台 AC長野パルセイロ(主将) ※2年連続(2011・2012年)、 JFLベストイレブン受賞	現役
14	金子恵	ザスパ草津	引退
15	細川淳矢	ベガルタ仙台 -水戸ホーリーホック	現役
16	奥埜博亮	ベガルタ仙台	現役
17	蜂須賀孝治	ベガルタ仙台	現役

※太枠は現役選手を示す。

蜂須賀さんの記者会見の様相【動画】(3分58秒)が本学ホームページでご覧頂けます。

※動画制作：スポーツ情報マスメディア研究所
映像アカデミー参加学生

「第17回新体操演技発表会」を開催



写真上：仙台大新体操競技部
わたなべますみ
中：渡邊真純さん
(体育学科4年一山形北高校出)
下：庄司七瀬選手

写真上：仙台大ジュニア新体操教室
中：塚田早紀さん
下：三澤樹知選手

写真上：仙台大プレイキン同好会
あづまあや
中：我妻彩さん
(体育学科4年一青森山田高校出)
下：仙台大男子新体操同好会

12月2日(日)、本学第五体育館で仙台大新体操競技部主催の「第17回新体操演技発表会」が開催され、約350名の方々が来場されました。

まず最初に仙台大学を代表して、朴澤学長は「今回初めて第5体育館で発表会を開催することになった。皆様楽しんで頂けるものと確信している。昨年建てられたばかりの第5体育館の広さや音響の良さも併せて実感してほしい」と挨拶しました。次に、同発表会を主催した仙台大新体操競技部の大山部長は「この日を迎えることができたのも、仙台大ジュニア新体操教室の保護者の皆様や大学の関係各位のご支援、ご協力のお陰」と感謝の言葉を述べ、「今回は、初めて仙台大ジュニア新体操教室の男子の演技が披露されるので注目してほしい」と見どころを紹介しました。

出演は、仙台大新体操競技部・仙台大ジュニア新体操教室・仙台大男子新体操同好会・仙台大プレイキン同好会みさわなちで、三澤樹知選手(2008年北京オ

リンピック新体操競技団体代表)しょうじなせと庄司七瀬選手(2007年佐賀インターハイ新体操競技女子総合優勝/史上2人目の3連覇達成)にも賛助出演して頂きました。会場内は各選手の大技が決まるたび大歓声や拍手喝采が起き、熱気に包まれました。

大学4年間の集大成とも言える発表会を終えた仙台大新体操競技部つかださきの塚田早紀主将(体育学科4年一群馬・富岡東高校出)は「これまで新体操を続けることができたのは、部長や監督をはじめ、多くの方々の支えがあったからこそであり、深く感謝している」と話し、「後輩達には今後も発表会を盛り上げてほしい」とエールを贈りました。また、仙台大新体操競技部の河野監督は「発表会を無事終えることができ、ほっとしている。来年もさらに充実した発表会になるよう部員達を支援していきたい」と話しました。

今年で17回目を迎えた新体操演技発表会は、さわやかな余韻を残し、幕が閉じられました。

TOKYO2020招致支援で本学学生もロンドン2012応援感謝パレードに参加



ロンドンオリンピック・パラリンピックに出場した選手が12月2日（日）、仙台駅東口でパレードを行ない、関係者によれば沿道は約48,000人の人で賑わいました。

パレードには室伏広治選手（陸上男子ハンマー投げ銅メダル）や吉田沙保里選手（レスリング女子55キロ級3連覇）、村田諒太選手（ボクシング男子ミドル級金メダル）、そして宮城県気仙沼市出身の千田健太選手（フェンシング男子フルーレ団体銀メダル）など数多くのオリンピックの他、ロンドンパラリンピックに出場した選手らも参加。

このパレードでは、本学の学生有志が2020年東京オ

リンピック・パラリンピック招致をPRする横断幕を招致委員会のスタッフとともに掲げ、オリンピック・パラリンピアンと一緒に進行。笑顔で手を振りながら宮城野通りを練り歩きました。

学生にとっては、アスリートとともに進行する貴重な機会となりました。また、沿道からの沢山の声援を目の当たりにし、スポーツを学ぶ身として、スポーツの力を肌で感じたのではないかと思います。

<寄稿：阿部篤志講師>

【参加学生一覧】

NO	氏名	学年	出身高校
1	伊藤ありさ	4年	古川黎明高校
2	佐々木里花	4年	一関第一高校
3	色川冬馬	4年	聖和学園高校
4	三浦崇悦	3年	福島東高校
5	青山史憲	2年	宮城広瀬高校
6	羽賀亜紀	2年	福島・橘高校
7	猪狩薫	3年	福島・桜の聖母学院高校
8	鎌上万里恵	3年	山形北高校

※N01～6はスポーツ情報マスメディア学科所属。
N07～8は体育学科所属。

デンマーク・リレベルト大学から教員2名が本学を訪問視察



左からメテリヒター准教授、朴澤学長、アンマリーディア准教授、四釜さん、鎌田国際交流センター長、笠原准教授、高橋まゆみ准教授

も挨拶を交わしました。

今年9月に朴澤学長らがデンマークを訪問し、リレベルト大学と協定書を締結しました。今回の2名の訪問は、来年、リレベルト大学の学長が来学する予定のため、事前に視察を行うことが目的です。同大学からメテリヒター准教授（国際交流センター長）とアンマリーディア准教授の2名が訪れました。

リレベルト大学の両准教授の予定は、3日（月）14時20分～本学教職員を対象とした講演会「社会起業家精神とは何か」をメテリヒター准教授が行い、6日（木）12時40分～本学学生を対象とした講演会「北欧諸国の健康教育について」をアンマリーディア准教授が行う予定です。7日（金）には、亘理町で被災地の視察、9日（日）にデンマークに帰国するという日程となっております。

12月3日（月）、国際交流協定校のデンマーク・リレベルト大学から教員2名が、鎌田幸雄国際交流センター長、高橋まゆみ准教授及び笠原岳人准教授と共に学長室を訪れ、デンマークに留学経験のある
しかまちひろ
四釜千尋さん（健康福祉学科3年－村田高校出）と

朴澤学長と菅原事務顧問がベトナムを訪問



ハノイ大学のLUAN総長と握手を交わす朴澤学長
左から2番目菅原事務顧問、3番目朴澤学長、4番目LUAN総長

独立行政法人日本学生支援機構が主催する「平成24年度日本留学フェア」が11月24日（土）～25日（日）に、ベトナムで開催されるのを契機に同フェアを視察するとともに、ベトナムの教育事情、留学生の交流の現状を把握し、今後のベトナムとの交流について本学の貢献すべき役割を構築することを目的として、朴澤学長に随行し渡航した。

ハノイで開催された同フェアには、我が国の国公立大学等72機関が参加し、来場の日本留学希望の学生は866人、ホーチミンで開催された同フェアには、68機関815人の参加と発表があった。会場は熱気にあふ

れており、いずれも大変盛況で、日本留学熱の高いことを実感した。また、ハノイ大学を訪問し、LUAN総長と面談をした。その際、LUAN総長は「総長の職務として、向学心に燃えている学生に多様な勉学の場を与えることは、自分の職責の中でも最も重要なこととされている」という趣旨のことを言われ今回の面談を大変喜んでおられた様子であった。「今後、学生の交流について、双方の国際交流の担当者間で実現の方向で詰めの協議を行う」ことで両学長間で意見の一致をみた。

また、ホーチミンに移動した際、ホーチミン社会科学人文大学の国際交流NGOC副部長と面談した後、ホーチミン市体育大学にTUNG国際交流部長の案内で訪問し、キャンパス内を視察した。両大学とも積極的に本学と交流を図りたいという意向を示し、ただちにハノイ出張中の学長の了解を得るとの説明があった。そのことを受け、今後国際交流担当者間で話を進めるべく意見の一致をみた。

その他、日本留学フェアに同行した各機関の多くの方々やベトナムで学んでいる日本からの留学生とも面談し、我が国の留学事情、ベトナムの留学事情、ベトナムの教育事情等々について実りある情報を得た渡航となった。

<寄稿：12月7日(金) 菅原正弘事務顧問>

リレベルト大学教員が被災地での災害ボランティアを見学



左から2番目アン マリー ディラ准教授、
3番目メテ リヒター准教授

デンマーク・リレベルト大学のメテ リヒター准教授とアン マリー ディラ准教授が12月7日(金)に、被災地である亘理町の公共ゾーン仮設住宅集会所で開催している災害ボランティアを見学し、「3.11の地震と津波のニュースをデンマークで聞いた時にはとても驚き、心配した。今回、日本に来て元気な皆さんにお会いできたことが嬉しい」と参加者に向け、お話されました。

また前日の6日(木)には、柴田町特定高齢者支援事業として開催している介護予防運動教室を見学し、実際に参加者に混ざり、プログラムに参加されました。「指導者が楽しい雰囲気教室を進めているのはデンマークと似ている。行政と大学が協力してこのような教室を運営しているのはとても興味深い」とお話されていました。今回、両准教授に仙台大学で取り組んでいる健康づくりの現場に実際に足を運んでいただけただけで、今後のリレベルト大学との交流が更に深いものとなることを期待できると感じました。

<寄稿：地域健康づくり支援センター>



全日本柔道連盟指導者養成講習会



指導者養成講習会の様子



受け身について解説する南條准教授

12月9日（日）、仙台大学柔道場で、全日本柔道連盟指導者養成講習会が開催され、約130名の柔道指導者（学校・警察・スポーツ少年団等）の方々が参加しました。

同講習会は、全日本柔道連盟が平成25年度から実施する「公認指導者資格制度」への移行措置及び「安全指導」の徹底と指導者の「基礎指導力向上」を目的として開催されました。

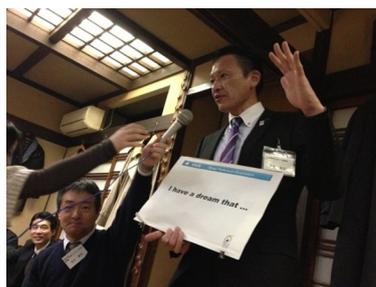
本学の南條充寿准教授（全日本柔道連盟強化委員会女子ジュニアヘッドコーチ）が同講習会の実技講師を務め、実演を交えながら「柔道の基本指導」をわかりやすく解説しました。

南條准教授は「他競技と比べ、柔道事故は突出して多い。この講習会を通して、常に危機感を持ちながら指導にあたってほしい」と力説し、「事故が起こらないよう環境を整える事故対応マニュアルや緊急連絡網の作成等が必要不可欠。正しい知識と迅速な対応の仕方を心得ておく必要がある」と話しました。

参加した受講生は、南條准教授の言葉に熱心に耳を傾け、メモを取る姿も見られました。

受講生からは「今回、改めて柔道の基礎・基本を学ぶつもりで参加した。南條先生の情熱が伝わってくるとても勉強になる講習会であり、参加して良かった」という声もあがるなど、大変有意義な講習会となりました。

「第8回スポーツを考える会」開催



仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所（ISIM）は2012年12月13日（木）、仙台市内で「第8回スポーツを考える会」を開催しました。この会は地域スポーツクラブやスポーツ行政、マスメディア関係者、市民、本学教職員・学生など、スポーツに関係・関心のあるさまざまな方にご参加いただき、スポーツをテーマに情報共有や意見交換をしながらネットワークの構築を図るものです。

8回目となった今回の情報提供テーマは「デュアルキャリア」（話題提供者：阿部篤志講師）。デュアルキャリアとは、「高等教育の枠組みの中で、トップレベルで競技を行なうアスリートの、高いレベルでのト

レーニングの継続を可能にするための環境・制度に対するアプローチ」をさします。アスリートにスポーツを「させる側」の責任や義務として、パフォーマンスと学業との実効性のあるバランスをいかに図るかがいま、欧州を中心に重要な政策課題の一つになっており、スポーツ基本計画にもその推進が明記されたことから、日本でも今後、さまざまな取り組みが行なわれていくとのことでした。

また今回の座長・土生善弘様（宮城県教育庁）からは、間もなく策定される「宮城県スポーツ推進計画」における今後10年間のビジョンとチャレンジについて、「I have a dream that...」というフレーズを用いた熱のこもったプレゼンテーションが、そのエネルギー溢れる姿に皆が引き込まれました。参加者はそれぞれの立場からこれらのテーマについて意見交換を活発に行ない、盛会となりました。

次回（第9回）の座長は宮城県高校体育連盟事務局長の鈴木秀利様をお願いをし、また新たなテーマでスポーツを考えます。

<寄稿：スポーツ情報マスメディア研究所>

健康づくり運動サポーター事業 「健康カフェ」及び「秋の健康収穫祭」合同報告会



12月10日（月）、本学学生食堂「なちゅら」で、平成24年度健康づくり運動サポーター事業の「健康カフェ」及び「秋の健康収穫祭」の合同報告会が開催され、本学教職員や柴田町役場等の方々計28名が参加しました。

同報告会の冒頭の挨拶で橋本実副学長（健康づくり運動サポーター事業推進責任者）は、「現在、国の基本方針として大学の人材育成に求められていることは、グローバル人材の育成・地域を活性化できる人材の育成である。本事業においては、「健康づくり」を通じた地域活性化を実施できる人材育成に重点を置いており、実践的な教育の場として、今後も柴田町と密に連携を図りながら本事業を推進していきたい」と話しました。

学生達による発表では、自らの活動の成果を堂々と報告。「検証結果を生かして、今後につなげていきたい」等々様々な意見を意欲的に述べました。

閉会の挨拶で小池和幸健康福祉学科長は、「健康づくり運動サポーター事業に関わった学生達は、健康づくりの場や教育の場で即戦力として活躍できると確信している。学生達は地域（柴田町）の参加者の方々に支えられ、温かく見守られているということを忘れないでほしい」と話し、「小さな成功体験の積み重ねを継続し、さらに力をつけてほしい。地域とより良い関係を構築し、社会に貢献できる人材育成を行ってほしい」と力を込めて話しました。

【「健康カフェ」発表学生】

NO	氏名	学年	出身高校
1	泉幸	4年	米沢中央高校
2	田中亮	3年	新潟・村上桜ヶ丘高校
3	金山瑠里	3年	聖ドミニコ学院高校
4	後藤璃帆	3年	山形・九里学園高校

※N01～N04は健康福祉学科所属。

※「健康カフェ」は、10月10日～31日の水曜日（計4回）に船岡駅2F コミュニティープラザで実施。マンスリーレポート10月号で紹介しておりますので、ご参照下さい。

【「秋の健康収穫祭」発表学生】

NO	氏名	学年	出身高校
1	奥山愛子	4年	青森・木造高校
2	松浦里紗	4年	福島西高校
3	四釜千尋	3年	村田高校
4	松原健人	3年	旭川大学高校

※N01～N04は健康福祉学科所属。

※「秋の健康収穫祭」は、11月4日（日）に槻木体育館及び下町集会所で実施。マンスリーレポート11月号で紹介しておりますので、ご参照下さい。

本学OBの植松鉦治選手と亀山耕平選手がDTBチームカップで 体操日本チーム男子団体優勝に貢献



OB 植松鉦治選手



OB 亀山耕平選手

12月1日（土）、ドイツのシュツットガルトで行われた体操の「第30回DTBチームカップ」男子団体決勝に、

日本チームの一員として出場した本学OB
うえまつこうじ
の植松鉦治選手（KONAMI/H20年体育学科
かめやまこうへい
卒—大阪・清風高校出）と亀山耕平選手（徳
洲会体操クラブ/H22年体育学科卒—埼玉栄
高校出）が、日本チーム団体優勝に大きく貢
献しました。2位はロシア、3位はイギリスと
いう結果。

植松選手は、得意の鉄棒でDスコア6.9得点
15.400、平行棒でもDスコア6.5得点15.166の
高得点を連発。亀山選手も得意のあん馬でD
スコア6.6得点15.366の高得点をマークするな
ど存在感を示しました。

今後も植松選手、亀山選手の活躍から目が
離せません。引き続き、両選手へのご支援を
宜しくお願い致します。

硬式野球部 宮坂基也さん、「プロ野球独立リーグ」に入団内定

みやさかもとや
本学硬式野球部の宮坂基也さん（体育学科4年—帝京高校出、外
野手、右投/左打、182cm/76kg）が2013年度新入団選手採用を目的
としたプロ野球独立リーグ「四国アイランドリーグplus」のトライ
アウトに合格し、高知ファイティングドックス（監督は元南海
ホークスの定岡智秋氏）から特別枠で指名され、12月10日(月)に入
団が内定しました。

本学硬式野球部からプロ野球独立リーグへの入団は、初めてとな
ります。

宮坂さんは、入学時から硬式野球部に入部。3年次に投手から外
野手に転向。野球が好きで、プロ野球選手になることを目指し、努
力してきました。

宮坂さんは、50m6.0秒、遠投113mと高い身体能力を誇る選手。
「大学4年間は思うような結果が残せず、悔しかった」と大学での
野球生活を振り返り、「2月からのキャンプに向けて、コンディ
ションを整え、絶対プロ野球選手になる」と今後の決意を力強く語
りました。

夢の実現へ向けて歩み出した宮坂基也さんへのご支援を宜しくお
願い致します。



第12回チェジュカップ柔道トーナメント(韓国・チェジュ島で開催)で 岩瀬輝衣子さん(63kg級)、鈴木真佑さん(52kg級)が優勝



左：岩瀬輝衣子さん、右：鈴木真佑さん

12月8日(土)～11日(火)に韓国のチェジュ島で開催された「第12回チェジュカップ柔道トーナメント」で、岩瀬輝衣子さん(63kg級／体育学科4年－愛知・大成高校出)と鈴木真佑さん(52kg級／体育学科2年－京都文教高校出)が見事優勝を果たしました。

二人とも国際大会出場は初めての経験。仙台大学卒業後、柔道の実業団チームヤックスケアサービスで競技を続けることになった岩瀬さんは、「結果を残せた

ことは嬉しいが、内容は不満」と話し、「確実に勝ち切れる勝負強さ・技を身に付け、今度は日本代表になって、国際大会で優勝したい」と今後の抱負を語りました。

また、国内の大会で負けが続いていた鈴木さんは、「挑戦者の気持ちで臨めたことが良い結果に繋がったと思う。もっと強くなって、インカレでも優勝したい」と意欲を述べ、「さらに強くなるためには、広い視野を持つことが必要であり、人間的にも成長していきたい」と語りました。

仙台大学女子柔道部の南條和恵監督は、「海外に行って外国人選手との試合を肌で感じる事ができた。自分達が世界でも戦えると実感できたはず。もっと上の目標を目指し、意識を高く持って、出る杭になってほしい」と岩瀬さんと鈴木さんの今後の活躍を大いに期待しています。

その他の同大会出場選手は、仙台大学卒業後、柔道の実業団チームJR東日本で競技を続けることになった

五味奈津実さん(体育学科4年－東京・藤村女子高校出)が52kgで2位、瀬戸美里さん(体育学科3年－東北高校出)が63kgで3位、松本友紀子さん(体育学科3年－東大阪大学敬愛高校出)が70kgで3位という結果でした。また、団体戦は、初戦で韓国の馬山大学<マサンダイガク>に2-3で競り負け、残念ながら初戦敗退となりました。

引き続き、次の目標に向かって進み出した仙台大学女子柔道部への声援を宜しくお願い致します。

全日本大学サッカー選手権大会 総理大臣杯覇者・阪南大学に力負け



写真上下：前半1分、果敢に攻め上がった嶺岸光さん（赤いユニフォーム・背番号14）がシュートを放つも惜しくも外れる

12月19日（水）、江戸川区陸上競技場で平成24年度第61回全日本大学サッカー選手権大会1回戦が行われ、仙台大学は、今夏の総理大臣杯覇者の阪南大学と対戦しました。

仙台大学は立ち上がり1分、嶺岸光さん（体育学科3年－聖和学園高校出）がシュートを放ち、いつもの攻撃的なサッカーが出来ると思われましたが、相手の前からの早いプレッシャーに戸惑い、一方的に押し込まれる展開となりました。前半7分に失点。さらにセットプレーから前半33分に追加点を奪われました。そのまま0－2で前半が終了。

後半、少しずつチャンスが出来てきた仙台大学。後半17分、15日の練習中に右足首を捻挫して、ベンチス

タートとなった主将の蜂須賀孝治さん（ベガルタ仙台入団内定／体育学科4年－桐生第一高校出）を投入。蜂須賀さんは攻守の要であり、チームの精神的支柱の選手。蜂須賀さんの投入によって攻守のリズムが良く

なってきました。最大のチャンスは、熊谷達也さん（全日本大学選抜／体育学科2年－柏レイソルユース出）のゴール前からのフリーキックでしたが、右ゴールポストに阻まれ決めきれず、また、途中出場の

四分一龍之介さん（体育学科2年－前橋育英高校出）がミドルシュートを放ちましたがゴールポスト上を僅かに外れました。最後までゴールを追い続けた仙台大学イレブンでしたが、結果は0－2の完敗。シュート数も仙台大学が4本（前半1本・後半3本）に対し、阪南大学は14本（前半9本・後半5本）という内容。

試合終了後、仙台大学の瀬川誠ヘッドコーチ（ベガルタ仙台からの派遣）は「相手の早いプレッシャーに仙台大らしいつなぐサッカーをやらせてもらえなかった。蜂須賀投入後は、選手達の気持ちが入った。蜂須賀はプレイだけでなく、声を出してチームに良い影響を与えてくれた。何回かはチャンスを作ったが、得点出来なくて悔しい」と試合を振り返りました。

蜂須賀主将は「今日の出場は無理だと思っていたが、仙台大の白幡恭子トレーナー（全米アスレティックトレーナー協会公認アスレティックトレーナー）の献身的なケアのお陰で30分間試合に出場することができた。試合には負けたが、大学サッカーに悔いはない」と冷静に話し、「仙台大は1・2年生主体の若いチーム。仲良しサッカーではなく、チーム内で切磋琢磨する仲間・高め合う仲間という強い意識を持って普段の練習を大切にして、全国でも勝てるチームに成長してほしい」と後輩達に熱いメッセージを残しました。

仙台大学サッカー部を支えて下さった皆様、試合会場まで応援に駆け付けて頂きました皆様に心からお礼申し上げます。

今回の敗戦をバネにして、さらに強く逞しいチームになることをご期待頂き、今後とも仙台大学サッカー部への応援を宜しくお願い致します。

全日本スケルトン選手権 本学OG小室希さん(仙台大職)が4連覇



写真右から米倉理絵さん、小室希さん、大向貴子さん
(写真提供：菊地志織新助手)

12月23日(日)、長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)で2012年全日本スケルトン選手権こむろのぞみが行われ、本学OGの小室希さん(仙台大職/H22年仙台大大学院修了-H19年体育学科卒-白石女子高校出)が堂々の大会4連覇(優勝は5回目)を果たしました。

バンクーバー冬季五輪女子スケルトン代表の小室さんは、一本目54秒94で1位につけ、二本目も55秒08で1位、2回の合計タイム1分50秒02で二本ともトップでゴールする完勝の滑りを見せました。また、本学OGのおおむかいたかこおむかいたかこ大向貴子さん(丸善工業食品(株)/H18年運動栄養学科卒-石川・輪島高校出)が1分51秒02で2位に入り、よねくらりえよねくらりえ米倉理絵さん(運動栄養学科4年-利府高校出)が1分52秒46で3位という結果でした。

今シーズンの海外遠征ではなかなか結果を出せなかった小室さんは、「4連覇は意識しなかった。海外遠征の後半戦では、集中力を高められなかったこと、身体的・精神的な準備の調整不足等が反省点となった。今回の大会は、それらの反省点が生かされた大会になったと感じている」と振り返り、「一本目に自己ベストを更新することができた。来年のソチ冬季五輪を見据え、自分の力をさらに伸ばしていけるよう初心を忘れずに頑張っていきたい」と最後まで気を引き締めながら話しました。

これからも小室希さん、大向貴子さん、米倉理絵さん3名への温かい声援を宜しくお願い致します。